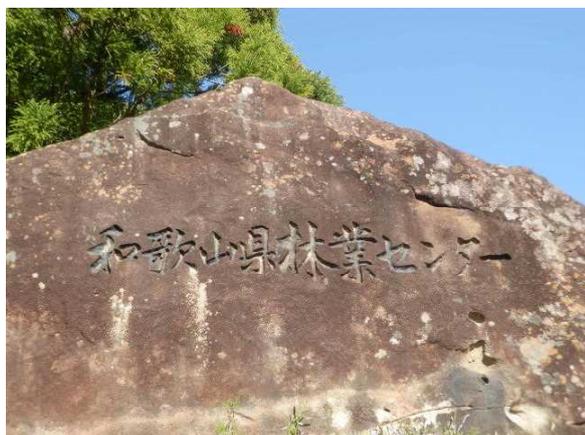


平成29年度のスタートです。

農林大学校（本校：かつらぎ町）に新設された林業研修部は4月7日に経営コース5名の入学生を迎え、林業試験場構内に開講されました。

昭和49年当地に試験研究と担い手養成研修の両機能を有する機関として林業センターを開設し、旧林業試験場（所在：古座川町）が移設されてから約40年が経過します。この間、林業センターは林業試験場と名称を変更しながらも、担い手育成を継続してきましたが、林業研修部にそのバトンをゆだねることとなりました。とは言え、試験場の職員も講師として協力します。



組織の名称「林業センター」はすでにありませんが、構内には、わかやま労働力確保支援センターを合わせて3機関が集まりました。和歌山県の森林林業の中核として、今も地元の方々に親しまれている名称「林業センター」を総称としてアピールしていきたいと思えます。

本年度は和歌山県長計の初年度でもありません。林業に関しては、「林業・木材産業の成長産業化」、「多様で健全な森林づくり」、「山村地域の活性化」がめざす方向です。試験場もこの方向に推進することとし、関係者や行政のニーズに応えられるよう、重点項目、紀州材の需要拡大のための利用・加工技術、低コスト林業推進技術と健全な森づくり技術、特用林産物の安定生産技術の確立、以上3点を掲げています。

これからは予測不可能なことが起きる時代とも言われますが、職員一同、研究成果を報告できるよう試験場創設81年目を歩んでいきたいと思えます。

（場長 城戸 杉生）

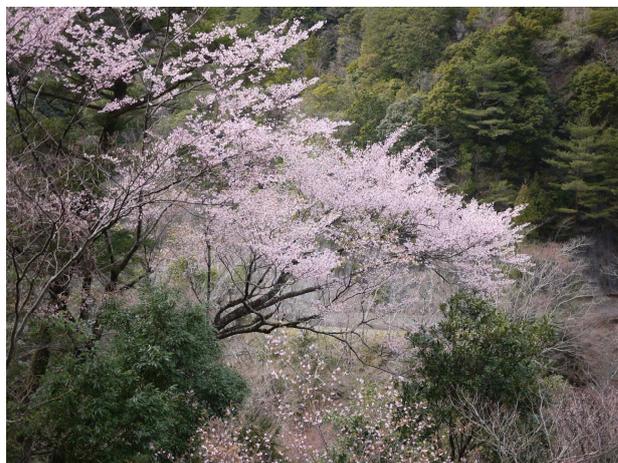
★ いちおしニュース! ★

はじめまして「クマノザクラ」です。

紀伊半島南部で風変わりなヤマザクラとされていた淡紅色の花弁をもつサクラの素性が、専門家の調査により明らかになりつつあります。今のところヤマザクラとは別種であることが分かってきました。



「クマノザクラ」と名付けられたこのサクラの特徴は①開花期が（クマノザクラ生育地の）ヤマザクラに比べて早いこと、②花が葉より先に出ること、③淡紅色の花弁をもつ（個体によっては白色もある）ことです。以上から、観賞価値の高いサクラになるのではと期待されています。なかには、ソメイヨシノと見間違ふほどの個体もみられます。林業試験場では、今後優良系統の増殖等の研究に取り組んでいきたいと考えています。来春には新種かもしれないクマノザクラの分類学上の位置づけが明らかになるでしょう。



（経営環境部 山下）

平成29年度 各部の研究業務等の紹介

■経営環境部

【部の概要】

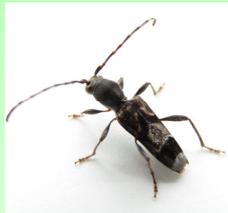
- ・森林管理手法や林木育種に関する技術開発
- ・森林病虫獣害の対策に関する技術開発

【技術相談が可能な内容】

- ・人工林・天然林の育成技術について
- ・林業種苗等の育苗技術について
- ・森林・林業における病虫獣害の対策について

【トピックス、お知らせ】

スギノアカネトラカミキリ（アリクイ）被害対策に関する研究成果について、競争力アップ研究成果集に掲載されます。



スギノアカネトラカミキリ

【スタッフ】

部長(副場長) 田上 耕司
主任研究員 日下 昭宏
主査研究員 法眼 利幸
主査研究員 山下 由美子
研究員 竹内 隆介

＜中辺路試験地＞

副主査研究員 田端 秋雄（月～水*）
（技師補 稲垣 憲一）

※ 中辺路試験地に御用の方は月～水に連絡してください。
（木～金は本場に連絡してください）

■木材利用部

【部の概要】

- ・紀州材の住宅用部材に関する研究
- ・紀州材の多目的利用に関する研究

【技術相談が可能な内容】

- ・木材の加工技術・強度等について

【トピックス、お知らせ】

「快適な紀州材内装材の提案に向けた印象評価調査」に関するアンケート調査を今年度の紀州材家づくりフェア会場において実施する予定です。



印象評価試験サンプル

【スタッフ】

部長 井戸 聖富
主任 池田 丈彦（林業普及指導員）
主査研究員 岡本 憲治
主査研究員 濱口 隆章
副主査 中谷 俊彦

■特用林産部

【部の概要】

- ・木材以外の山菜やキノコ、木の実、花木、紀州備長炭など特用林産物の活用に関する研究
- ・特用林産物の安定生産技術の開発

【技術相談が可能な内容】

- ・山菜やキノコの栽培技術について
- ・サカキ等花木の栽培・管理技術について
- ・特用林産物の病虫害防除技術について
- ・紀州備長炭の製炭・原木の択伐技術について

【トピックス、お知らせ】

サカキの新たな害虫（オビヒメヨコバイ族の一種）の防除に向け、高知県と連携し年間の発



オビヒメヨコバイ族の一種

生消長等の本格的な調査を開始しました。

【スタッフ】

部長 坂口 和昭
主任研究員 坂本 淳
主査研究員 杉本 小夜
技師補 稲垣 憲一

★平成29年度 農林水産業競争力アップ技術開発事業の新規課題がスタート！

■“地域の稼ぐ力を生む”イタドリの増殖と機能性成分活用に係る研究開発（H29～31）

遊休地の活用と省力栽培が可能であることから、近年栽培要望の多いイタドリについて、栽培・加工に向く優良系統株の短期間大量増殖技術を開発します。また、県工業技術センターおよび日高川町生活研究グループ「イタドリ部会」と連携し、消費拡大に向けてイタドリの機能性成分の分析と、最適な加工方法を検討し、商品開発に取り組みます。

この研究により、郷土山菜イタドリ活用した“地域の稼ぐ力”を生み出していきたいと考えています。



編集・発行 和歌山県林業試験場

〒649-2103 西牟婁郡上富田町生馬1504-1

TEL：0739-47-2468 FAX：0739-47-4116

※『やまびこ通信』は「和歌山県林業試験場のホームページ」にもアップしています。